



小牧山

# 戦国に馳せる

長久手町郷土史研究会

第21回 小牧・長久手の戦い（小牧の陣）

会長 中野 鉄也

## 後継者争い

天正10年（1582）6月、清須会議で織田家の家督は、信長の嫡男信忠の遺児でわずか3歳の三法師（のちの秀信）が継ぐことになりました。信長の仇を討った秀吉の意見が通ったのです。この決定に不満をもった柴田勝家と信長の三男信孝は、対決姿勢を強めます。

そして天正11年（1583）3月、「賤ヶ岳の戦い」で、信長の次男信雄を擁した秀吉は、勝家・信孝を打ち破ります。これによって信長の真の後継者は秀吉であることが明らかとなりました。

ところが秀吉の「主家」を自認する信雄はこれを認めず、秀吉と対立する態度をとります。

天正12年（1584）3月、信雄は秀吉に通じた疑いのある三人の



▲豊臣秀吉画像（名古屋市博物館蔵）

家老を処刑し、徳川家康に支援を求めます。信雄単独ではとうてい秀吉に太刀打ちできず、家康を頼ったわけです。家康も以前は信長の同盟者として、後継者として最短の距離にあつたはずですが、いつのまにか秀吉に出し抜かれ、このまま座視してはいずれ秀吉に天下を奪われることになるとして、信雄の要請を受け入れ、秀吉との対戦を決意します。

## 小牧・長久手の戦い

天正12年3月7日、家康は浜松を出発し、13日、信雄のいる清須城に到着します。この頃、織田氏譜代の家臣で信雄方とみられていた美濃大垣城主池田勝入（恒興）が突如秀吉軍に寝返り、10日に犬山城を攻め取ります。

秀吉側の森長可も小牧山を狙っていたため、16日、小牧山を望む羽黒（犬山市）に陣を構えます。17日早朝、家康軍の酒井忠次らが森隊を攻撃し打ち破ります。これが羽黒の戦い（八幡林の戦い）です。

家康は28日には小牧山に入り、その周囲に土塁や砦を築き、秀吉軍に備えます。

一方、秀吉は3月21日に大坂を発し、27日に犬山城に入ります。28日には楽田城を本陣として周りに陣を展開します。

しかし両軍ともに砦や土塁を構築して準備しているため、小競り合いがあつた程度で双方睨みあうばかりの膠着状態が続きました。

そこでこの状態を打開するべく、秀吉側の武將池田勝入（恒興）が家康軍の陣を迂回し、家康の領地岡崎への中入り（迂回）作戦を提言します。秀吉はこれを受け入れ、秀吉の甥三好信吉（のちの秀次）を総大将とし、池田勝入、森長可、堀秀政に中入り作戦を命じました。4月6日夜、兵2万人が三河国の岡崎に向けて出撃します。



▲楽田城跡（犬山市）

問合せ 文化振興課 ☎76-1189